

工具のいない GC カラム接続 簡単・確実に接続できる手締めナット

Agilent セルフタイトカラムナット

カラム接続部の締め直しが不要な Agilent セルフタイトカラムナット

GC におけるカラム接続は、トレーニングや慣れが必要な作業の 1 つです。特に、カラムオープン時の昇温プログラムを実施した場合、カラム接続部が緩むことがあります。接続が緩むと、ベースラインノイズの増加や不正確な分析結果、フィッティングの締め直しに伴う時間のロスなどの問題につながります。

革新的な技術を用いたセルフタイトカラムナットにより、これらの問題を解決することができます。



セルフタイトカラムナットを使えば、高価なアップグレードやアダプタがなくても、確実な接続が実現します。特に、質量分析計や ECD といった酸素の影響を受けやすい検出器には最適です。アジレント独自の技術を活かした、このステンレス製ナットには、以下の特長があります。

- **信頼性の高い接続**：カラムナット内部にスプリングが内蔵されていることにより、85% ポリイミド / 15% グラファイト ショートフェラルが常にカラム接続部に密着され、リークのないシールを実現します。
- **時間のロスを回避**：オープン昇温プログラム後に、カラムナットを締めなおす必要がありません。
- **使いやすさ**：指で締められるため、スパナなどの工具がありません。どなたでも一貫性の高い確実なカラム接続が可能です。
- **迅速なメンテナンス**：低トルクのため、取り外しの際のフェラルの貼りつきや割れを防止します。
- **低カラムブリード**：リークを防止することで、カラム寿命を延ばします。



セルフタイトカラムナットの取扱方法が動画でご覧いただけます。
取り付け解説ビデオをご覧ください。

agilent.com/chem/jp



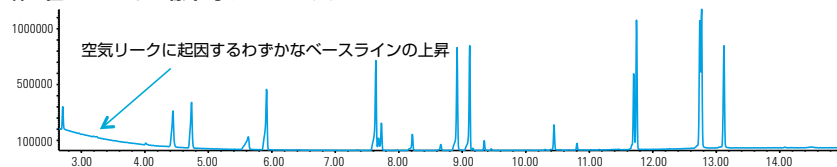
Agilent Technologies

確実なカラム接続を長期にわたり実現

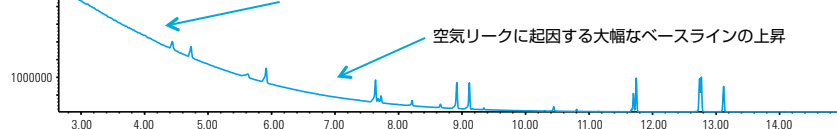
標準的なカラムナットとセルフタイトカラムナットの比較

標準的なカラムナットでは、締め直したあとでも、わずかに空気のリークが生じる場合があります。Agilent セルフタイトカラムナットでは、400 回の注入を経ても、リークの問題は生じていません。

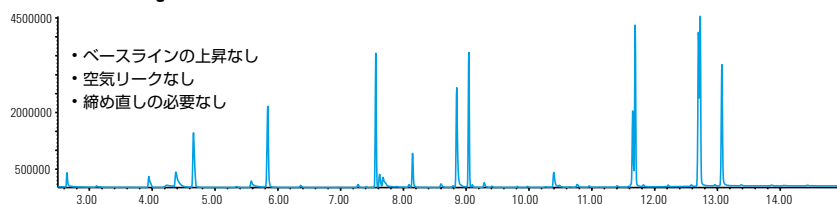
締め直したばかりの標準的なカラムナット



25 回注入後の標準的なカラムナット



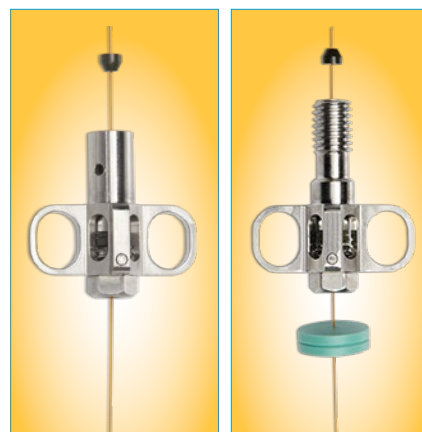
400 回注入後の Agilent セルフタイトカラムナット



データの品質や一貫性を高める アジレントの消耗品をご利用ください。

- ・ Agilent サンプル前処理製品は、一貫したフロー、クリーン性、回収率をご提供します。
- ・ Agilent J&W GC カラムは、シャープなピーク、最高の不活性、確実なカラム間再現性を実現します。
- ・ 不活性イオン源と優れた分析機能を備えた Agilent GC および GC/MS システムは、信頼性の高い一貫したクロマトグラフィーを実現します。

2つの構成を用意 同じショートフェラルを使用



セルフタイトカラムナット、MS トランスフェライン用
部品番号 5190-5233

セルフタイトカラムナット、GC 注入口、検出器用
部品番号 5190-6194

詳細は、ホームページをご覧ください。担当営業・販売店にお問い合わせください。

agilent.com/chem/jp

0120-477-111

email_japan@agilent.com

本資料に記載の情報は、予告なしに変更されることがあります。

アジレント・テクノロジー株式会社
© Agilent Technologies, Inc. 2016-2019

Printed in Japan, April 1, 2019

5991-3962JAJP



Agilent Technologies